

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091100067		
法人名	株式会社 ライフエイドジャパン		
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原ミルテ		
所在地 (電話番号)	福岡市南区柏原1丁目2-4 (電話) 092-567-6310		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年12月16日	評価確定日	平成22年1月7日

【情報提供票より】(H21年11月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	5 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	(有) 家賃の6ヶ月分 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	420 円	昼食 525 円
	夕食	630 円	おやつ 105 円
	または1日当たり	1,680 円	

(4) 利用者の概要 (11月24日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 90 歳	最低 79 歳	最高 104 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵光会 原病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い交差点付近に建つ有料老人ホームの1階にあるグループホームである。事業所の裏にある、車椅子でも行くことが出来る広い庭には、畑や屋根付きのデッキがあり、野菜の収穫や散歩、日光浴が出来る。重度の利用者が多い中、管理者や職員は、手づくりの行事や外出などを計画し、利用者の状況に応じて力を発揮出来るような支援をしている。共用の空間では、利用者と職員がひとつのテーブルを囲み、和やかな時間が流れている。母体が病院であり、医療との連携の点では様々な支援ができています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題の中にあつた、食事を楽しむことのできる支援の項目については、利用者の半数以上が食事介助を必要とし、きざみ・とろみ食中心の利用者も多い中、初めはおかずの盛り付けをそのまま並べ、状況に応じてミキサーにかけるなど、できるだけ食事が楽しみとなるような支援に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、職員の意見を集めて、全職員によってひとつにまとめられている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>併設の有料老人ホーム、近隣にある同法人のグループホームの3施設合同での運営推進会議となっている。2ヶ月に1回開催されており、参加者は、町内会長・副会長、民生委員、家族代表、地域代表、包括支援センター、法人社長、母体病院の介護課長、事業所の職員である。内容は利用者やサービスの実際、外部評価、事故などについて細かく報告を行い、意見交換し、サービスの向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族の来訪が多く、来訪の際に、意見・要望が出しやすい雰囲気づくりに努めている。家族会や運営推進会議で意見交換をする機会があり、運営に反映させている。事業所入口には苦情箱を設置し、利用者の居室には連絡ノートを置くなどの工夫をしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との交流は積極的に行われており、良い関係が築かれている。自治会へ加入し、地域の防災訓練や清掃活動に参加している。事業所内で定期的に地域向けの健康相談会を開催しており、回覧板で案内し、認知症についてなど様々な相談に応じている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間としての尊厳を大切に、家庭的な雰囲気が入居者の個性を生かし、日常的な支援を行う」という理念を掲げ、更に「1. 人格の尊重 2. 自立支援 3. 安心、安らぎ」という実行目標もたてている。理念と実行目標は事業所独自に開設時につくられたものである。		地域との関係性が重要視されるようになった今、開設時につくられたままの理念ではなく、地域や利用者のニーズ、事業所の状況の変化などを考慮し、地域密着型サービスとしての理念を検討することを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間の壁に大きく掲示したり、職員の名札の中に入れるなどして、日常的に目に入るように考慮しているが、全ての職員が共有するまでには至っていない。		申し送りや定期的に行われているスタッフミーティングなどの中で、理念についての話し合いや確認をするなどして、全ての職員が、理念を共有できるような取り組みを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流は積極的に行われており、良い関係が築かれている。自治会へ加入し、地域の防災訓練や清掃活動に参加している。事業所内で定期的に地域向けの健康相談会を開催しており、回覧板で案内し、認知症についてなど様々な相談に応じている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価については、職員間だけでなく、運営推進会議や家族会で報告をし、意見交換を行い、改善に取り組んでいる。今回の自己評価については、全ての職員で取り組み、それぞれの意見を出し合いつづられている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の有料老人ホーム、近隣にある同法人のグループホームの3施設合同での運営推進会議となっている。2ヶ月に1回開催されており、参加者は、町内会長・副会長、民生委員、家族代表、地域代表、包括支援センター、法人社長、母体病院の介護課長、事業所の職員である。内容は利用者やサービスの実際、外部評価、事故などについて細かく報告を行い、意見交換し、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政が開催する研修会には積極的に参加している。包括支援センターが近くにあり、利用者を支援するための相談などがある際には足を運んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	現在、制度を活用している利用者は居ないが、管理者や職員は研修会などに積極的に参加しており、どの職員でも制度について理解できている。制度についての資料も整備しており、必要な時に支援可能な体制ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、利用請求書を送付する際に、利用者の写真などが載った事業所の便りを同封している。また、6ヶ月に1回、家族会が行われており、職員も参加し、様々な報告を行っている。また、家族の来訪も多く、その都度報告を行っているが、必要に応じて電話などで、個々に合わせた報告もしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪が多く、来訪の際に、意見・要望が出しやすい雰囲気づくりに努めている。家族会や運営推進会議で意見交換をする機会があり、運営に反映させている。事業所入口には苦情箱を設置し、利用者の居室には連絡ノートを置くなどの工夫をしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の悩みなどを聴き、離職を必要最低限に抑える努力をしている。やむを得ず離職をする場合は、声掛けなどを工夫してダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除していない。20代～60代の職員が居り、管理者は職員の希望に応じて社会参加や自己実現できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動  法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者や職員は、人権に関する研修会などに積極的に参加しており、利用者に対する人権を尊重している。		
13	21	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員が研修を受けるための機会を確保しており、全職員が積極的に研修に参加している。外部の研修だけでなく、法人内部の研修も多く行われており、職員が働きながらレベルアップしていくことを進めている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にある同法人のグループホームとは、行事を合同で行うなどして交流をしている。管理者は外部研修に参加した際に、他事業所と交流し、他施設の見学を予定するなどの取り組みを行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族などのその時の状況に応じて、入居前に自宅や施設を訪問している。見学や体験入居などを行うなどして、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、家族の一員であるという考えを職員は共有しており、和やかな生活ができるような場面づくりや声かけができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前後の生活歴や希望、意向は本人や家族から情報収集している。入居後も利用者本位に検討できるよう、職員間で申し送りノートを用いて気づきを日々確認し、家族とも連携をとっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の計画作成に向けて、本人や家族に日々の関わりの中で思いや意見を聞き、職員間では申し送りやスタッフ会議で意見交換している。介護計画については、管理者と認知症介護実務者研修を修了した職員2名とで作成されている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直し、作成を行っている。変化などが生じた場合は必要な関係者と話し合い、その都度作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が病院ということもあり、通所リハビリや訪問リハビリ、往診などが柔軟に行われている。その他、利用者や家族のその時々々の要望に応じて、自宅への外泊や近隣への買い物などの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は、全利用者が母体病院をかかりつけ医としている。重度の利用者が多いことから、耳鼻科や皮膚科等については他の病院に往診を依頼し、連携を図っている。ご家族の同伴が不可能な場合は職員が付き添って受診するなど、希望に応じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の際の方針は、契約時に本人や家族に説明し、同意を得、希望を聞いている。看取りの経験は少ないが、職員は方針や対応を共有しており、急変した場合の対応についても病院との連携をはかり、準備に取り組んでいる。		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対して誇りやプライバシーを損ねるような対応はしていない。記録などは、職員が利用するカウンター内に保管し、個人情報の取り扱いについては同意書をとるなどして、取り扱いに注意している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間で区切った過ごし方はしていない。通所リハビリへ行く利用者、訪問リハビリや鍼灸を受ける利用者も居り、個々のペースに合わせ、食事の時間をずらすなどして考慮している。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度の利用者が多く、準備や片付けが難しい中、出来ることを見つけ、利用者から大根漬を教わり、利用者・職員で味わうなどしている。利用者の半数以上が食事介助を必要とし、きざみ・とろみ食中心の利用者も多い中、初めはおかずの盛り付けをそのまま並べ、状況に応じてミキサーにかけるなど、できるだけ、食事が楽しみとなるように支援している。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度の利用者が多く、入浴介助が必要なこともあり、だいたいの曜日や時間は決められているが、希望や必要に応じて変更している。入浴時に使用する椅子やベルトなどの福祉用具を工夫して、できるだけ心地良く入浴できるように支援している。入浴拒否の強い利用者に対しても、タイミングや声かけなどを工夫して、無理強いすることなく楽しく入浴できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できるだけ利用者の力を引き出せるように努力している。車椅子で行くことが出来る庭の畑で季節の野菜を収穫したり、摘んだ花を事業所に生けるなどしている。職員はアイデアを持ち寄り、手作りの催しを計画し、敬老会やミニ運動会を利用者の状況を考えてながら行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況を考えて、バスバイクの参加や、外食などの支援をしている。事業所内の庭には、畑や屋根のついたデッキがあり、野菜の収穫や散歩、日光浴が出来る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の入口と居室には鍵をかけていないが、玄関は外部からの侵入を防ぐためにオートロックとなっている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の消防訓練では、夜間を想定しての訓練も行っている。地域の防災訓練にも参加し、地域への非常時に備えた協力のお願も行っている。災害時・緊急時の連絡網を事業所内に掲示し、職員は共有できている。スプリンクラーも設置しており、設備が整っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量についてはチェックされており、1日を通じて確保できるように支援している。個々の状態に応じて、塩分や電解質などを調整するなどの配慮もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく、全体が見渡せる開放的な空間となっている。中心にある大きなテーブルには、生花や利用者家族から戴いた季節の飾りものがあり、利用者が集まり、和やかに過ごしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居前に使っていた家具などが置かれ、利用者の使っていた道具や手芸品などが持ち込まれており、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		